

会 議 録

会 議 名	文化によるまちづくり推進委員会（第1回）	
開 催 日 時	平成31年1月30日（水） 18時30分～20時30分	
開 催 場 所	市役所3階 小会議室	
出 席 者	齊藤大二郎、岡本 紘子、縄手 秀樹、吉水多加志 林 絹江、千々松武博、富田 輝美、塩田 賢二 田村 洋	委 員 数 14人 出席者数 9人
欠 席 者	比嘉 朝康、廣田 由実、長岡 武寛、中戸 千恵 湯城 明彦	欠席者数 5人
事務担当課 及び職員	地域振興部文化振興課 地域振興部：川地部長 文化振興課：長井課長、渡辺主幹	
会 議 次 第	1 開会挨拶 2 議題 （1）平成30年度文化振興事業について （2）第7回現代ガラス展 in 山陽小野田について （3）かるた（小倉百人一首）競技の振興について （4）芸術文化の振興及び文化によるまちづくりの推進について 3 その他	
事務局	議題2（1）平成30年度文化振興事業について 資料1及び資料2について説明	
委員	山口県交響楽団コンサートの入場者を見ると大ホールに326名というのは少しさびしく感じる。入場料が問題か、興味をもってもらえないのが問題かは分からないが、もう少し入場者を増やす方法はないか。無料も含めて、検討をしてもらいたい。	
委員	過去の手持ち資料を見ると、平成25年度が489人、平成28年度が416人、平成29年度が383人、今年度が326人と減少している。催しを終えたあとに必ず総括、反省の話し合いを持つことが重要である。この減少の現実をみて担当課は分析してもらいたい。	
委員長	入場者数が少なく、減少している事実を踏まえて、PRの方法など研究していく必要があり、検討が必要であると思う。	
事務局	いずれの催しも入場者数の確保に苦慮している。催しの内容にも問題があるのかもしれないが、PR方法については工夫の余地があると感じてい	

	<p>る。今年度実施した催しについては、アンケートなどを参考に振り返り、今後に活かしたい。</p>
委員長	<p>高校生に対してのPRなどはおこなったのか。</p>
事務局	<p>高校生への限定的なPRは行っていない。</p>
委員	<p>音楽の催しを中・高校の吹奏楽部生徒にPRしても、料金の問題ではなく、部活練習を休みにくいと言う生徒もいた。このような現状があるので、中・高校生の入場を目的にするのであれば、指導者の先生らを巻き込むことを考えないと、ただ生徒たちに声をかけるだけでは難しいと思う。</p>
委員	<p>一昨年に文化協会で琉球舞踊の公演を千円で行い好評だった。観客からは、この内容で千円ならまた観に来たいとの声がたくさんあったので、内容によっては観客も増やすことができると思う。ただ、音楽に関心がある人は、自分の好みにこだわる人が多いのでそのあたりが難しいとは思う。</p>
委員	<p>行政がやるなら無料でいいではないかと言う声もある。オーケストラを呼んで千円は高くないと思うが、認識の差もあって難しいと感じている。</p>
委員長	<p>音響が優れた文化会館のホールでオーケストラのコンサートが千円というのは、専門家からみれば安いと感じられると思うが、値段への温度差はあると思われ検討、努力は必要。また、市外に向けてのPRなども検討課題である。</p>
事務局	<p>議題2（2）第7回現代ガラス展 in 山陽小野田について 資料3について説明</p>
委員	<p>今回の県立萩美術館・浦上記念館での展示が良かったので、今後もチャンスがあれば市外での展示は行っていくべきである。総合計画では次回の平成33年度では目標を1万人としているが、達成には工夫が必要であろう。もう少し早くからPRしても良いと感じる。また、会場は商業施設であれば買い物のお客さんが見込めるため有利とは思いますが、このまま商業施設での開催でよいのかとも考える。</p>
事務局	<p>ガラス展は本市の特色ある文化であり、今後も力を入れていく。3年に一度の開催としているが、他展との重複開催を避けて次回は平成32年度の開催を予定している。第8回ガラス展でも市外での展示も考えている。また、シティセールスの観点からもガラス＝山陽小野田市となるようガラス</p>

	<p>展を広くPRしていきたい。PRについては、工夫すれば集客につながると実感した。第8回でも集客につながるPR方法を検討していきたい。</p>
委員	<p>マスメディアの利用はできないのか。SNSやテレビはPR効果が高いと思う。NHKの番組に取り上げてもらうことなどができれば、多くの人に本市のガラスに対して興味をもってもらえることができるし、PR効果もとても高いと思う。</p>
委員	<p>PRは大事であるが、市が事業に対してどれだけの予算をかけることができるか、その覚悟をどれだけもっているかが問題である。ガラス展に限らず、事業を行うには経費をどう賄うかを考える必要がある。</p>
委員長	<p>市内でもまだまだ認知されていないという実情があるため、市がガラス文化推進に積極的に取り組んでいることを来年度から市内外にアピールしていこうと考えている。素晴らしいガラス作品を市が保有しているので、市の財産として市外に向けて見せていく、貸し出していくことも考えている。</p> <p>メディアの利用は費用対効果を考えながらガラス展実行委員会で検討してもらおう。第7回では萩市での展示を行ったが、山陽小野田市がガラス文化を発信していることをPRするためにも今後も市外での展示は継続したい。また、大規模なガラス展は全国で3つしかなく、そのうちのひとつが山陽小野田であるので、県外での展示も検討していきたい。</p>
委員	<p>ガラス展の大賞作品は、市が買い上げているのか。どこかに展示しているのか。</p>
事務局	<p>大賞賞金は100万円であるが、市に作品を寄贈することを条件にしている。市役所の正面玄関に入ってすぐのロビーに展示している。</p>
委員長	<p>市役所にずっと展示しておくのではなく、巡回やたくさんの人の目に触れるようにすることを検討するべきと考える。</p>
委員	<p>宇部空港には展示をしたのか。展示には費用がかかるのか。</p>
委員長	<p>宇部空港にはガラス展のチラシは置いたが、作品の展示はしていない。展示するならば費用は必要である。市も宇部空港のロビー等のテレビモニターの利用を考えている。こちらも費用は必要だが、本市の情報発信に利用することを検討中である。</p>

委員	<p>全国で3つガラス展があると言われたが、そのことを皆が知れば、本市の取組みが凄いことに気づくのではないかと感じる。他のガラス展と認識しあって進めていくのがいいと思う。</p>
委員長	<p>今までは認識しあうというよりも競合しあっていたが、実際に全国で3つしかないのだから、連携していく方向は考えるべきと思う。</p> <p>第7回ではガラス展を学校の授業の一環として観覧してもらおうことができなかつた。次回は1万人入場を目標としているので、授業としてガラス展を観てもらえるように学校にも御協力いただきたい。</p>
事務局	<p>第6回と第7回を比較すると、全体の入場者数は減少していたが、高校生以下の入場者数が増加していた。きららガラス未来館で行っているガラス体験は子どもが中心であり、学校単位でも授業の一環として同館で体験していることもあり、子どもたちにはその体験を通じてガラス文化が少しずつ根付いてきているのではないかと感じる。また、開催期間が夏休みということや入場無料ということで、中・高校生が友達同士で入場しているのを見かけた。友達同士で感想を話し、熱心に作品を観ていたことが印象に残っている。この子どもたちが家に帰って家族にガラス作品のことを話してくれれば、少しずつではあるが、本市にガラス文化が浸透していくのではないかと感じた。</p>
委員	<p>ガラス作家は少なく、コンクールでは出展作家の奪い合いのような面がある。この点で、若手作家を対象にしている本市のガラス展は着目点がよくて面白いと感じる。</p>
委員長	<p>数少ない若いガラス作家のうち4名がきららガラス未来館にいる。このことを有効に活用していきたい。</p>
事務局	<p>議題2（3）かるた（小倉百人一首）競技の振興について</p> <p>今年度は競技用かるた入門セットの購入と、かるた教室を予定していたが、当初の計画の遂行が大幅に遅れており、現在、かるたセット購入を手配している。かるた教室についてはまだ、一度も開催できていない。かるた購入後に小中学校の先生を対象としてかるた教室を開催予定。競技者の活躍については、小野田高校小倉百人一首競技かるた部が山口県代表として数々の全国大会に出場する活躍をみせている。個人戦においても、小野田高校のかるた部員はもちろんのこと、市内在住の中・高校生が各種大会で上位の成績を収め、全国大会で優勝した3人が2月15日の山陽小野田市芸術文化奨励賞で表彰される。市としても、かるた協会と密に連携し、競技人口の増加や、それを支える担い手の増加につな</p>

	がるよう市内の学校や地域への普及を図っていききたい。
委員	小・中学校への働きかけだが、教育委員会とうまく話をつけておかないと難しい。学習以外の社会見学などの学校活動に取り入れてもらえればよいのではないか。小野田高校は、以前から3学期はじめに1年生を対象にかるた大会を行っている。このような伝統があつてかるた部も発足した経緯がある。このように子どものころからかるたに慣れ親しんでもらうことが大事。
委員	市が百人一首を学校に配布するのであれば、20枚ずつで5色に分かれたかるたにして欲しい。使いやすく、朝のモジュール学習の時間で利用でき、机ひとつに並べることもできる。20枚くらいであれば、子どももすぐに歌を覚える。すでにかるたについてはノウハウがあるのを皆さんはご存じでない。
事務局	かるた協会から初心者用のかるたを見せてもらったが、今説明があつた読み札と取り札が20枚ずつ5色に分かれたかるたで、取り札の表には下の句、裏には上の句が書いてあり、下の句を覚えていなくてもゲームができる。読み札、取り札の隅には通し番号がふつてあり、小学校1年生にも札が揃っているかどうかの確認をすることができる。中学生には、少し子どもじみているかもしれないが、これまで百人一首に全く触れたことがない初心者は、取り組みやすいと思う。配布は各クラスに1セットを予定している。
委員	各クラス1セットでは少し足りない。百人一首に興味を持っている先生は自費で5色かるたを購入し、生徒たちにやらせているので、案外とやっている生徒も多い。一度にたくさん配るだけ用意ができないのであれば、学校別にして、3年計画で全校に行きわたる方法のほうが良い。クラスに1セットずつでは流行らない。
委員	小・中学生対象の計画になっているが、幼稚園、保育園でも年長であればかるたができる。幼稚園、保育園から興味を持たせて、小学校、中学校と競技かるたにつなげるという計画性を持ち、配るだけで終わることなく実施してほしい。
委員長	事業費の兼ね合いもあるので即答はできないが、今出た意見を参考にして今後取り組んでいく。
委員	総合計画では競技人口を平成33年度で50名を目標としているが、現時

	点ではどのくらいいるのか。
事務局	小野田高校の部員が今年度は12人いる。かるた協会に所属して市内でやっている方が20人弱くらいと理科大にかるた部ができて10人くらいではないか。
委員	小学生、中学生にかるたを普及して目標値を達成してほしい。
委員	萩の子どもたちは吉田松陰先生の名言・格言をすらすらと暗唱する。このように山陽小野田市でも、誰に聞いても百人一首が暗唱できるようなまちになると、誇れる文化になると思う。
事務局	委員の皆様には現場の声を聞かせていただき、目標とすべきところを示していただいた。これから一步を踏み出すところなので、皆様のご意見を参考に進めていきたい。
委員長	議題2（4）芸術文化の振興及び文化によるまちづくりの推進について ご提案、アイデアなど自由な意見を積極的にいただきたい。
委員	色々な分野の文化があると思うが様々な所とタイアップして進めるべきで、連携して人を集めることを考えてはどうか。文化会館は、周辺の駅南地域の開発が遅れており、連携するところがないところが残念である。
委員長	ガラスとの連携では、小野田駅北にできたスマイルキッズという施設でガラス制作を体験してもらい、レノファの山陽小野田市DAYでガラス制作を体験してもらいなど、きっかけ作りはすでに始めている。
委員	文化振興は以前から計画にあがっていたが、財政難が原因なのか文化的な方面への予算は目減りしている。底辺から文化を支えるためには、財政的な援助、枠を広げないと持ちこたえられない。市長には、このような会議の場で皆さんの生の声を聴いていただきたい。皆がどんな考えを持っているかを分かってもらうことだけでも大事だと思う。働きかけをしていただきたい。
委員長	このような委員会では議事録を作成し、市長に報告をする。市長本人が出席するのは、なかなか難しいかもしれないが意見が出たことは伝えたい。
委員	市長には速やかに会議内容を報告してほしい。

委員	歴史民俗資料館はこの管轄になるのか。
委員長	教育委員会の管轄であるが、御意見があればどうぞ。
委員	歴史民俗資料館の入口が気軽に立ち寄りにくい造りだと感じる。予算の関係もあるだろうが、何とか工夫はできないか。硫酸瓶は東京の国立科学博物館にも出展されているが、地元の人には、これらの文化に触れているのか疑問である。人が入りたくなるような看板を置くなども考えて欲しい。
委員長	文化財関連は、教育委員会の管轄となるが、今日の意見は伝える。
事務局	<p>3 その他</p> <p>市民館整備事業に伴う閉館を平成32年3月まで延長することを報告した。</p> <p>委員の任期が2月16日をもって満了するため、新しい委員については、4月1日から2年間の任期で務めていただくよう事務手続きを進めていく。推薦を皆様の所属団体をお願いするようになること、及び、公募委員については、2月15日号の広報やHPに掲載し、市民の皆様から広く募ることを報告し、協力を依頼した。</p>